

# 新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発

## 解決したい課題・研究開発目標

### 解決したい課題

- 高齢者の自立生活に対する科学的評価の必要性
- ⇒信頼性・妥当性が確立された老研式活動能力指標(古谷野ら, 1986)
- ⇒健康水準の向上をはじめとする高齢者を取り巻く環境の変化
- ⇒上記指標の測定項目が今日の高齢者の実態にそぐわない

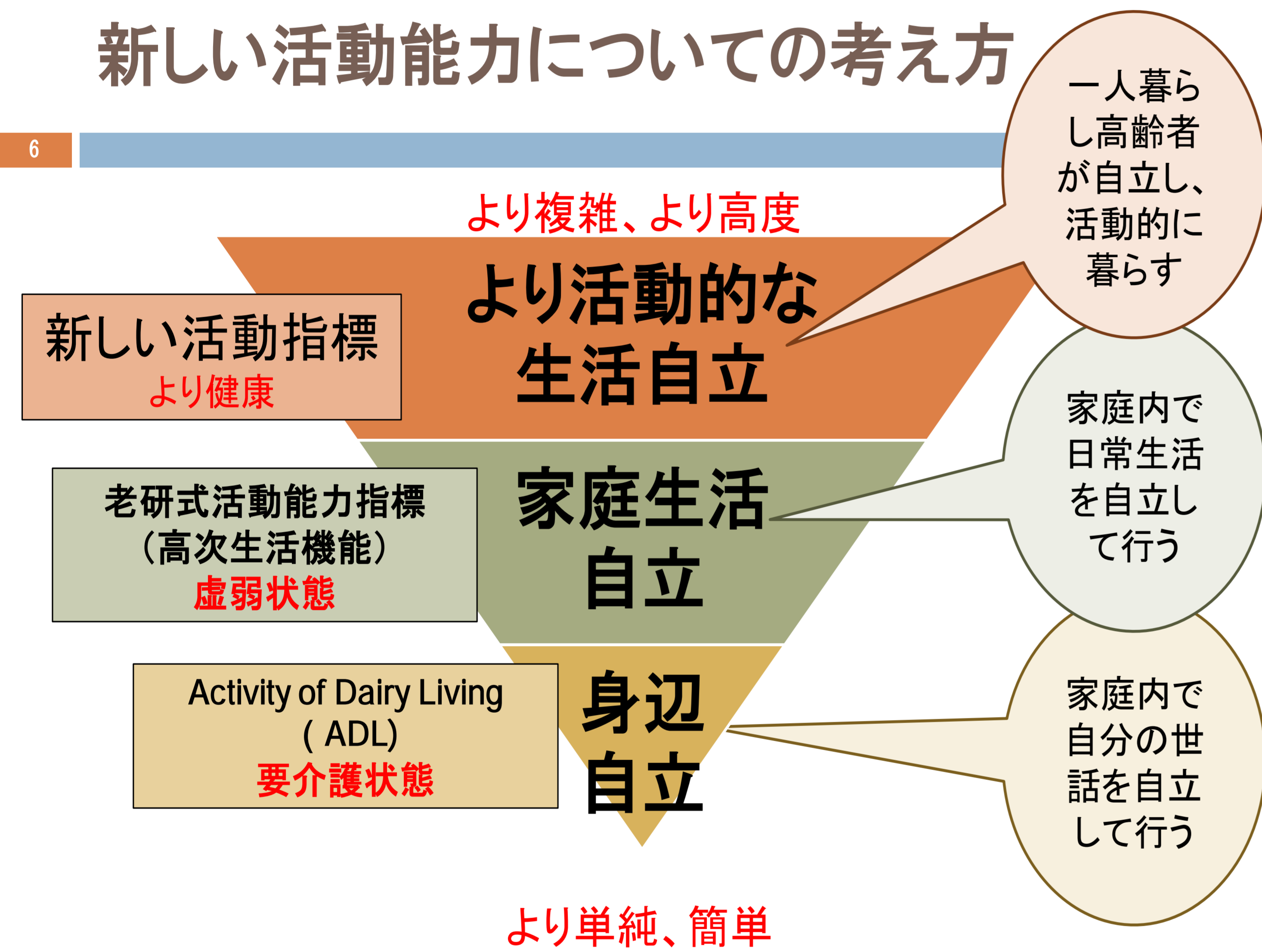
### 研究開発目標

- ”今日”の日本の高齢者に対応するための新指標の開発
- ⇒都市部・非都市部・全国を対象に調査・分析、一般性の高い新指標を開発

## プロジェクトの実施方法

### 全体計画・プロジェクト展開方法

### 新しい活動能力についての考え方



- 学際的で、バラエティに富んだレクチャー
  - 1 高齢者のIT機器の利用実態と生活能力との関係
  - 2 高齢者の就労を中心としたプロダクティビティ
  - 3 老研式活動能力指標の開発過程と現代の課題
  - 4 高齢者の社会貢献・社会参加に関する実態
  - 5 高齢者の社会的ネットワークの実態
  - 6 都市高齢者が日常的に交流する他者とは
  - 7 社会活動に関する満足度の測定

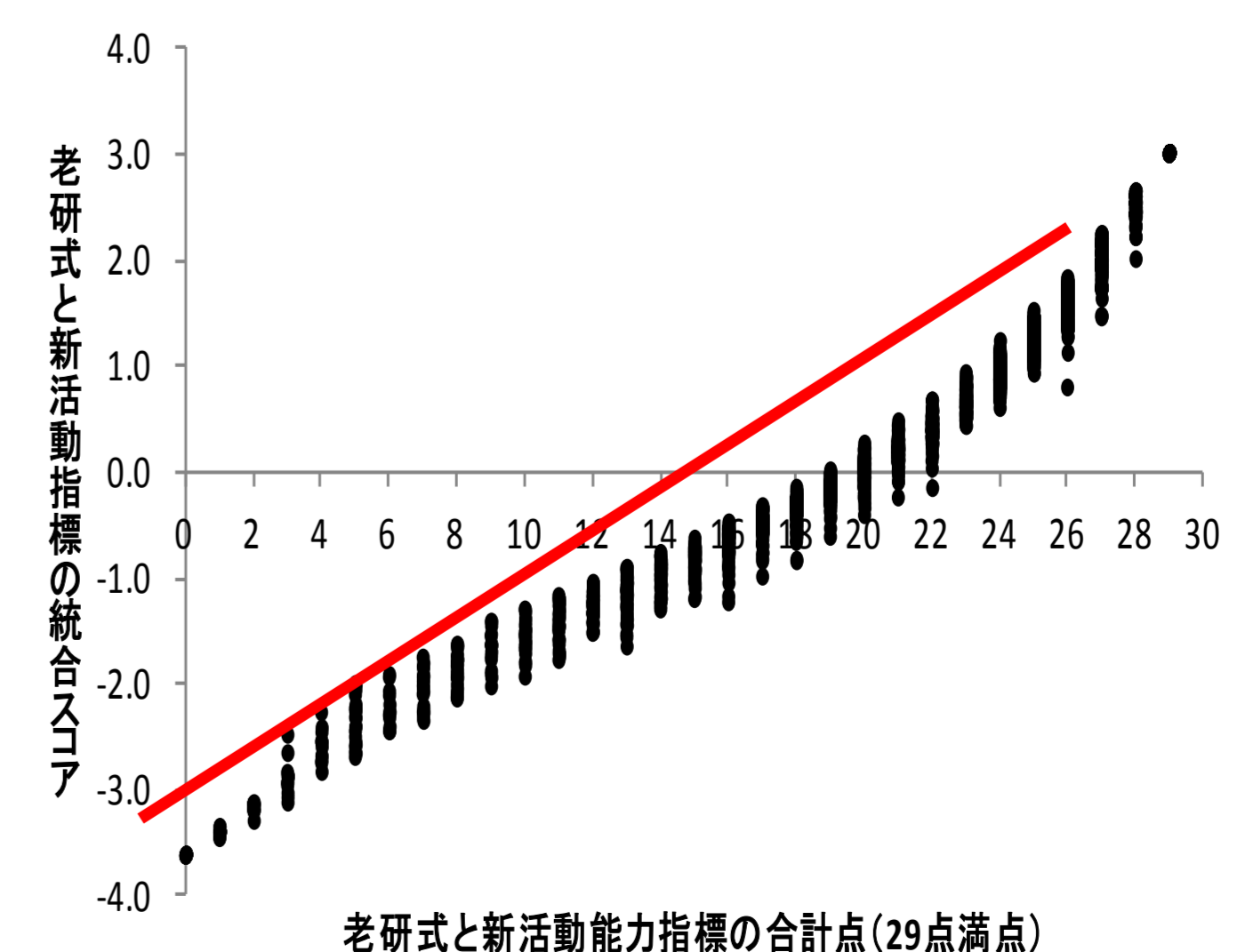
- 2度の全国調査により地域差、男女差の少ない項目を抽出

- 4因子、16項目からなる指標を開発

因子名	項目	転載不可
社会参加	町内会・自治会で活動していますか	
	地域のお祭りや行事などに参加していますか	
	奉仕活動やボランティア活動をしていますか	
	自治会やグループ活動の世話役や役職を引き受けることができますか	
新機器利用	携帯電話やパソコンのメールができますか	
	携帯電話を使うことができますか	
	ATMを使うことができますか	
	ビデオやDVDプレイヤーの操作ができますか	
情報収集	教育・教養番組を視聴していますか	
	外国のニュースや出来事に関心がありますか	
	美術品、映画、音楽を鑑賞することができますか	
	健康に関する情報の信ぴょう性について判断できますか	
生活マネジメント	病人の看病ができますか	
	孫や家族、知人の世話をしていますか	
	生活の中でちょっとした工夫をすることができますか	
	詐欺、ひったくり、空き巣等の被害にあわないように対策をしていますか	

老研式活動能力指標と組み合わせることで

IADLに障害のある方から活動性の高い方まで様々な高齢者の活動能力を評価できる



### 対象コミュニティ・研究開発体制

- 【対象コミュニティ】 東京都A区(都市部)  
愛知県B市(非都市部)
- 【 主要な関与者 】 研究者、各分野の専門家

## プロジェクトの成果と今後の展望

### プロジェクトの成果(開発した社会技術)

#### ■ JST版活動能力指標とそのマニュアル

##### ご利用方法(例)

##### ■ 高齢者ご本人や地域高齢者の健康に関わる専門職の方

本指標は、高齢者の健康状態や社会的な不活発さを、老研式活動能力指標などより早くキャッチできます。地域にお住まいの高齢者のより早期の介護予防・孤立予防のツールとして期待できます。

##### ■ 自治体の福祉・健康部門の方

本指標は、地域住民全体の健康度、活動度の評価に使用できます。また地域で行われる介入活動の評価に用いることが可能です。地域の問題を発見し、その解決に資するツールとして期待できます。

##### ■ 高齢者を対象とした社会組織・企業の方へ

本指標は、高齢者個人の、新しい機器や社会活動への準備性(どの程度上手く利用できるか、どの程度活動の中で活躍できるか)を評価することができます。新規の機器・活動の導入を促進するツールとして期待できます。



3 得点の全国標準値

JST版活動能力指標は65歳~84歳の全国の高齢者2580名のデータに基づき、本指標の全国標準値を算出しています。表2は、JST版活動能力指標の合計点および各下位尺度得点の平均値と標準偏差を、年齢・男女別に示したものです。

表2 JST版活動能力指標の年齢別・男女別の全国標準値

	全体 (N=2580)	65-74歳 男性 (N=731)	65-74歳 女性 (N=774)	75-84歳 男性 (N=468)	75-84歳 女性 (N=609)
新活動能力指標合計	9.7 (4.2)	11.0 (3.9)	10.6 (3.8)	8.9 (4.4)	7.7 (4.2)
新機器利用	2.3 (1.5)	2.9 (1.3)	2.6 (1.3)	2.0 (1.5)	1.4 (1.4)
情報収集	2.9 (1.3)	3.1 (1.2)	3.1 (1.2)	2.8 (1.3)	2.5 (1.5)
生活マネジメント	2.8 (1.2)	3.0 (1.2)	3.1 (1.1)	2.5 (1.3)	2.5 (1.3)
社会参加	1.7 (1.6)	2.0 (1.6)	1.8 (1.6)	1.6 (1.6)	1.2 (1.4)

表3 年齢別・男女別のJST版活動能力指標合計得点のランキング

JST版活動能力指標 ランキング	全体 (N=2580)	65-74歳 男性 (N=731)	65-74歳 女性 (N=774)	75-84歳 男性 (N=468)	75-84歳 女性 (N=609)
上位1-25位まで	13-16	14-16	14-16	12-16	11-16
上位26-50位まで	10-12	12-13	11-13	10-11	8-10
上位51-75位まで	7-9	8-11	8-10	6-9	4-7
上位76-100位まで	0-6	0-8	0-7	0-5	0-3

表4 年齢別・男女別の各下位尺度得点のランキング

各下位尺度得点 ランキング	新機器利用 (N=2580)	情報収集 (N=2580)	生活マネジメント (N=2580)	社会参加 (N=2580)
上位1-25位まで	4	4	4	4
上位26-50位まで	3		2-3	2-3
上位51-75位まで	2	2-3	2-3	1
上位76-100位まで	0-1	0-1	0-1	0

### 今後の展開・展望

1. マニュアルの作成・配布
2. 指標に関する基本的論文が国際誌に採択  
Iwasa et al: Gerontology and Geriatric Medicine, January-December, 1-11, 2015.  
→今後この論文を基盤に論文を積み上げる予定。
3. JST-ICの妥当性に関する調査研究  
代表性の高い集団での得点分布: 群馬県嬲恋村  
認知機能・運動機能との関係: 兵庫県(伊丹市・朝来市) & 東京都(板橋区・西多摩郡)
4. 地域介入での評価指標や活動参加候補者のスクリーニングツールとして導入  
住民との協働による介護予防のまちづくり介入研究: 東京都豊島区  
→JST指標の得点は、地域活動への参加の意思、活躍のあり方を予測する

### プロジェクトお問い合わせ先

東京都健康長寿医療センター研究所  
担当者 吉田英世 増井幸恵  
TEL : 03-3964-3241(代表)  
e-mail : jstic@tmig.or.jp

	尺度得点低群 n=1319			尺度得点高群 n=1078			有意差
	やった	してみたい	やりたくない	やった	してみたい	やりたくない	
子育て支援	9%	20.0%	79.0%	8.2%	37.7%	54.1%	p<.000
地域環境保全活動	4.4%	35.9%	59.7%	19.9%	50.4%	29.7%	p<.000
安全・防犯・防災活動	7.1%	23.0%	69.9%	26.1%	36.4%	37.5%	p<.000
活動の世話役・手伝い	5%	24.3%	75.3%	10.4%	45.2%	44.3%	p<.000
高齢・障害者ボランティア	2.2%	24.4%	73.4%	14.9%	39.6%	45.5%	p<.000
教育・講師活動	3.8%	22.0%	74.1%	19.2%	40.3%	40.6%	p<.000